

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立鷹の巣幼稚園】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	鷹の巣幼稚園 全学級 16名 保護者 16名 地域 6名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科等名 (○) ② 行事名 (○) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動遊びを通して、体を動かす楽しさや喜びを感じながら、チャレンジしようとする実践意欲を養う。 ・ 人との交流を通して、相手に対する礼儀や共によりよく生きようとする心情を培う。 ・ 様々な文化とのふれあいを通して、心豊かな子どもを育成する。
5 取組内容	<p>【年間テーマ：たかのすげんきっこタイムを楽しもう】 <常時活動「たかのすげんきっこ運動を楽しもう」> ○ 毎日30～60分間、園庭や遊戯室などで様々な運動に挑戦して遊び、体を動かす楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 園庭：三輪車、二輪車、短縄・長縄、竹馬、固定遊具チャレンジ、かけっこ、リレー遊び、鬼ごっこ、ボール遊び など ・ 遊戯室：ジャンピングマット、トランポリン、マット、平均台、巧技台、はしご、ビーム、跳び箱、鉄棒 など ・ 保育室：リズム遊び、鉄棒、マット、トランポリン、大型積み木など <p>・ 各遊具の遊び方や安全面での約束を行い、けがの防止に努めた。 ・ 各年限の運動目標遊具（年少：ボール、年中：短縄、年長：竹馬など）をつかい、友達と一緒に楽しみながら挑戦した。年長児は、親子でつくった竹馬に挑戦し、自分の目標に向かって最後まであきらめずに取り組む力が養われ、自信につながった。 ・ 様々な運動に挑戦して遊び、体を動かす心地よさを感じながら、体力向上や認知能力向上をめざすことにも努めた。 ・ 異年齢園児が一緒に遊ぶ中で、交流し、教え合い、互いに親しみをもちながら体を動かして遊ぶ心地よさを味わうことができた。</p> <p><各学期1回実施「矢幡先生とげんきっこ体操を楽しもう」> ○ 体操教室講師矢幡道子先生より、運動遊びの指導や運動会取組に向けた教師の研修会を行う。</p> <p>①運動会取組（運動全般・ダンス）について研修する。 ・ 幼児の発達に応じた運動内容、体を動かすことと身に付いていく力との関係、運動する意味などを学ぶ。学んだ内容を日常の活動に取り入れ実践した。 ・ 10月運動遊び発表（運動会）にて、指導いただいたことと日頃積み重ねた運動遊びを保護者に発表した。</p>



みんな一緒に遊戯室でサーキット遊びをしよう



みんなでリレーごっこはい！バトンタッチ！



遠くへボールを投げるよ



体を曲げるよ
頭がついた!



縄跳びのこつ(縄の持ち方)
を教えてくださいました



リズムジャンプ運動
楽しいね! 大好き!



武藤さんの講話
幼児期の運動はとても大切...



リズムに合わせて
ダブルジャンプ!



おうちの人と一緒に叩こう
太鼓のリズムを声に出して

②各年限30分、矢幡先生と「げんきっこ体操」に挑戦する。

- ・ 全園児とも、リズム体操や柔軟運動、器械運動、遊具をつかった運動遊びを行い、各年限の課題に向けて取り組んだ。
- ・ 年間1回、親子げんきっこ体操を実施。『運動遊びと子どもの健やかな発達・運動遊びのよさ』などの話を保護者に伝えながら、親子で楽しめる運動遊びの指導をしていただいている。

- (年少組)・サーキット遊び(マット・跳び箱・ビーム・はしごなど)
・ ボールを使った運動遊び など
- (年中組)・バランス感覚を身に付ける運動やリズム遊び
・ 短縄を跳ぶこつやいろいろな遊び方 など
- (年長組)・マット・跳び箱運動(正しい手のつき方と回り方跳び方)
・ 鉄棒運動(前回り+降り・逆上がりのこつ)
・ 体幹を身に付ける運動 など

<毎週2回朝実施「リズムジャンプ運動に挑戦しよう」>

- ギラヴァンツ北九州普及事業部武藤克宏さんに、サッカー教室で指導を受け、保育に取り入れている。
- リズムトレーニング(リズムジャンプ運動)とは・・・

- ☆ 体力向上・認知能力向上につながる、子どもたちの大好きな運動。
- ☆ 「音・リズム・動き」の楽しさが、脳に刺激を与え、「脳によい」といわれている。集中力アップにもつながる。
- ☆ 朝15分運動することで、脳を刺激し、楽しく体を動かし、すっきりとした気持ちで、意欲満々に一日をスタートできる。
- ☆ 運動を続けることで、足腰が安定し、体幹が整い、走力も伸び、様々な運動機能アップやけがの防止にもつながる。
- ☆ 友達と並んで待って運動する、先生の話をしっかり聞く、などの社会性も育つ。

① 日々の活動で

- ・ なかよし異年齢グループの友達と一緒に、ビートの効いた音楽に合わせて、ラインを跳び越え、様々なジャンプ運動に挑戦している。

② 「ムーコーチと運動遊びをしよう」

- ・ スポーツリズムトレーニングの運動的効果や認知能力向上等についての話を聴く。(保護者)
- ・ リズムジャンプ運動やボール運動を楽しむ。(幼児)

③ 「サッカー教室で楽しもう」(秋・冬2回)

- ・ 北九州市や福岡県サッカー協会主催サッカー教室で、ムーコーチにリズムジャンプ運動やのサッカーの指導をしていただく。

- 子どもたちは、リズムジャンプ運動が大好きで、様々なジャンプ運動に喜んで取り組み、体力・運動能力アップにつながっている。

<『地域の伝統文化：鷹見楽太鼓』や音楽文化に親しまおう>

- 『鷹見楽太鼓』は、地域の貴重な無形文化財で、年長児が、保存会の方と一緒に練習し、年間5回伝統太鼓に親しんでいる。通常は、成果を地域の秋祭り『穴生まつり』で披露する。

- ・ 保存会の方には、ばちの持ち方・叩き方だけでなく、礼儀作法も教えていただいている。

- ・ 太鼓のリズムは難しく、口伝と独自の楽譜で、リズムを口ずさみながら繰り返し練習している。

- ・ 秋から、親子で和太鼓演奏を楽しみ、日本文化に親しんでいる。

- ・ 毎年長児は『鷹見楽太鼓』演奏に期待と喜びをもち、「自分たちが受け継いでいる」という自信にるながら、地域の方と関わる貴重なふれあいの場ともなっている。

- 「♪リトミック教室」



「I'm sleepy…」カードに合わせて言ってみよう。

- ・ 講師の先生に、音楽や話に合わせて身体を動かしたり、様々な表現遊びを教えていただいたりして、新たな音楽文化とふれあった。
- ＜年間3回「異文化理解体験：ユナ先生と英語体験を楽しもう」＞
- ユナ先生（フィリピン出身）と一緒に歌ったり、簡単な英語を話したりして、外国のことを知ったり、英語に親しんだりする。
 - ・ 各年限の実態に応じた内容で、歌や歌遊び、クイズやゲーム、身体表現などを体験しながら、楽しい活動時間となっている。

<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常の運動遊びや「リズムジャンプ運動」「げんきっこ体操」などに取り組むことを通して、運動技能・認知能力が向上し、運動する楽しさを実感し、進んで運動しようとする態度を養うことができた。 ○ 体操教室講師の指導で、幼児の発達に応じた遊びに、遊具を有効活用し、平衡感覚や柔軟性、調整力を養ったり、体幹を鍛えたりした。苦手なことを克服し、幼児の心の成長にもつながっている。 ○ 文部科学省推進幼児の体力向上「1日に60分以上の運動」を達成した。 ○ 日本伝統文化や様々な音楽文化、異文化(英語や国)にふれ、多様な体験の積み重ねによる幼児の豊かな心の育成や小学校教育へつなぐ取組を行うことができた。 ○ 今年度もコロナ禍での実践で、活動内容や関わる人に制限があったが、礼儀作法を学んだり、様々な人とふれあうことの楽しさを実感したりして、コミュニケーションの素地や社会性を養うことができた。 ○ 園だよりや学級だより、HP等で保護者へ活動内容や効果を知らせたり、実際に講師の話をきいたり体験したりしたことで、理解が深まり、子どもにとって貴重で必要な体験だと喜ばれている。
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの取組内容を見直したり、整理したりして、幼児や保護者にとって必要な取組を継続し、新たな内容を取り入れることで、豊かな体験・健やかな幼児の育成につなげるようにした。 ○ 地域の文化財や人材、教材や教具等の大切な教育対象を求め、効果的に保育に取り入れるよう努めた。「伝統文化・和太鼓体験」と「リズムジャンプ運動体験」は園の特色として継続できている。 ○ 今年のオリンピック・パラリンピック東京大会に幼児なりに関心がもてるように、手づくり五輪の旗やマスコットキャラクターを掲示し、機会をとらえて、大会を話題にしたり、自分たちも元気に運動遊びに取り組んだり、運動会を頑張ったりできるようにした。 ○ 幼小の接続を意識した内容を取り入れ、多様な体験の積み重ねと小学校での学びを支える力の育成も目指した。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児がオリンピック・パラリンピックの意義等を深く理解することは難しい。しかし、生涯、運動と親しめるよう、幼児期に運動する楽しさが実感できるようにし、全身を動かし健康に過ごそうとする気持ちを育てることが必要だと考える。 ○ 幼児期の運動指針(文科省)を参考に、様々な運動遊びと幼児の発達の関連性や効果を分析し、運動内容と育ちを系統立ててまとめることを課題としたい。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの実践を活かし、幼児の実態に応じた運動体験や文化体験等を保育に効果的に取り入れ、幼児の心身の育ちを考察していく。 ○ 自国文化への理解を深め、小学校へつなぐ教育内容(英語体験・異文化理解など)を意図的に取り入れ、活動を楽しんだり、国際理解につなげたりしていく。 ○ 保護者や地域へ、取組のよさや園の特色を発信しながら継続し、取組への理解をさらに進めていく。